



新23回生 黒木由里子氏

東京学芸大学卒業
渋谷区立西原小学校勤務

私が新宿高校に入学したのは今から35年前のことです。35年というところが遠くなるような昔の事のように思われますが、私は今でもあの大正時代に建てられた旧校舎で生活をしていた、一年間の事を鮮明に覚えています。

旧校舎はコンクリート作りで、中は薄暗く殺風景な印象を受けたものです。空気がひんやりとしていて、それが却って授業に合い、凛とした雰囲気を感じ出していました。

私は一年F組でした。何が驚いたかと言って、当時クラスに二名も「デモ」に参加したことがある。」という男子生徒がいたことです。彼らはデモの様子を話してくれました。それはとても恐ろしい体験だったこと。なぜならばジグザグデモだったので、仲間と離れないようにデモをするのと、いつ機動隊や警官がデモを止めるかもしれないので、彼らの様子を計りながら行進するのに神経を擦り減らしたと言っていました。

郊外の、のんびりとした田園地帯から新宿高校に入学した私にとって、は正に、別世界のでき事でした。私は一瞬唾然として話を聞いていました。でもそこは高校一年生、普段は男女和気あいあいとしており、私の友人達の間ではクラスの子や上級生の品定めをよくしたものです。当時どうやって手に入れたのか覚えていないのですが、寺内大吉氏が書いた新宿高校生ラブストーリーを誰かに借りて夢中になって読みました。その後しばらくは「続編はないのかしら」と、その続きを読みたくて仕方ありませんでした。

館山での臨海教室、富士見高原でのクラブ合宿、戸山戦、合唱祭、メーデーの日の映画会と思えば出は尽き

ないのですが、私に様々な事を考えさせるきっかけとなった出来事と言えば、高2の時の学園紛争が挙げられるでしょう。

一九六九年十一月、当時の織田校長先生に学園紛争を起こしたメンバー達が数項目の要求を提出しました。それを発端として全学集会やクラス討議が行われ、授業がしばらく中断される事態となりました。しかしその後一ヶ月程の内に事態は収拾の方向へと進みました。

当時は様々な大学、いくつかの高校で学園紛争が起こりました。それは日本の社会全体を揺るがすものとなりました。

その後私は日本の社会や教育、生活環境や公害などについて関心をもち始めました。今でも、人間だけでなく、あらゆる生物が共に共存している理想的な自然環境について考えることがあります。その根っこになったのは当時の新宿高校と日本の社会にあったような気がします。

訂正とお詫び

第一〇三号に誤りがありました。
①一面の同窓生シリーズ中、山之内秀一郎氏の本校卒業年は、「昭和二十七年」です。②二面の英語科の紹介で、窪田美耶子先生が写っておられない写真を掲載してしまいました。謹んでお詫び申し上げます。

編集後記 二年 広報部

初めての広報活動参加に少々不安なスタートでしたが、試行錯誤を重ね、やっと発行に至りました。

今号発行にあたり、お忙しい中、写真、原稿、アンケート等にご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。